

# 個性を生かす地域づくりに 向けた取組みについて

作成年月日	令和8年4月16日
作成部局名	企画部地域振興課

# 目次

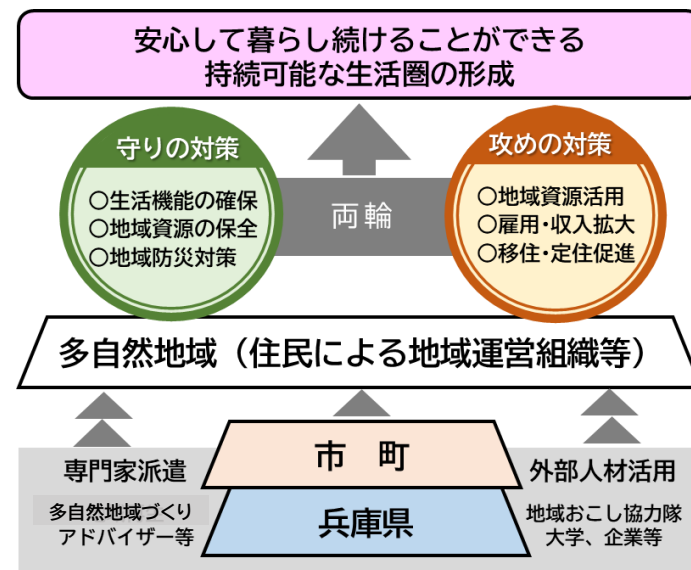
- 1 持続可能な多自然地域づくりプロジェクトの推進……………P 3
- 2 移住定住施策の推進……………P 7
- 3 多様な地域資源の活用……………P 9



## 1 持続可能な多自然地域づくりプロジェクトの推進

### (1) 持続可能な多自然地域づくりプロジェクトの概要

- ・ H20～小規模集落対策「地域再生大作戦」の成果や課題を踏まえ、R5～本プロジェクトを始動
- ・ 都市部を含む37市町へ対象を拡大、広域的に支え合う地域運営組織を構築し、持続可能な生活圏の形成を目指す
- ・ 県は市町への専門的支援と広域的支援を担い、県と市町の重層的な支援体制のもとプロジェクトを推進
- ・ **〔R8新規〕プロジェクト全体の検証・次期施策を検討**



#### H20～R4年度

プロジェクト名	地域再生大作戦
対象地域	小規模集落 約900集落
対象市町	都市部を除く29市町 (対象外：神戸、阪神北、東播磨管内12市町)
支援対象単位	小規模集落の維持・活性化に向けた単発・部分的な地域
役割分担	県が主導
県	小規模集落に県が直接支援
市町	-

人口減少の更なる進展で集落単位の地域づくりが限界

小規模集落が3倍に急増  
都市部でも増加

施策の見直し

個々の集落での地域運営や担い手の枯渇

#### R5年度～

プロジェクト名	持続可能な多自然地域づくりプロジェクト
対象地域	多自然地域の全集落 約3,000集落
対象市町	都市部を含む37市町 (対象外：尼崎市、芦屋市、伊丹市、播磨町の4市町)
支援対象単位	旧小学校区等の広域的な地域運営組織等の面的な地域
役割分担	県と市町の重層的支援体制
県	市町に対する広域的、専門的支援
市町	地域への伴走支援

#### R8年度

集中支援期間 (R5～R7) 1年延長

より多くの実践結果を踏まえた評価検証を行うためプロジェクトを継続

検証

施策検討

市町のニーズや実情、有識者を交えたプロジェクト検証・次期施策検討会を踏まえ、支援施策の見直し等の検討を進める

次期施策立案

## 1 持続可能な多自然地域づくりプロジェクトの推進

### (2) 市町による伴走支援体制の確立に向けた支援 ※採択期間を1年延長⇒R8新規着手可能

- ・ 熟度やニーズに合わせ自由度が高い事業費補助、市町職員の人材不足対策として人件費補助の両輪で支援
- ・ 特定地域づくり事業協同組合の設立による地域づくり人材の確保や移住・定住を支援
- ・ 大学や企業等との連携による外部人材活用を促進するための支援

※金額は事業費上限、R8は予定

#### ① 「持続可能な生活圏」形成支援事業〔事業費補助〕 (対象：多自然地域37市町)

市町の総合的・戦略的な集落対策、地域対策等の立ち上げ等について3年間合計1,000万円(県1/2補助)を支援

【取組状況】 24市町 [R5~①南あわじ市、②神戸市、③多可町、④神河町、R6~⑤西脇市、⑥加西市、⑦豊岡市、⑧丹波篠山市、⑨淡路市、R7~⑩宝塚市、⑪猪名川町、⑫相生市、⑬養父市、⑭朝来市、⑮佐用町、⑯三田市、R8~8市町]

フェーズ高

#### 【集落対策】

⇒話し合いの場づくり、主体的活動、地域づくりビジョン策定

#### 【地域運営体制の構築】

⇒地域運営組織等の体制構築  
多様な取組の実践

#### 【持続可能な生活圏形成】

⇒住民自治の確立  
・生活機能の確保 ・地域資源の保全  
・雇用拡大 ・6次産業化 等

#### ② 市町地域伴走支援体制整備事業〔人件費補助〕 (対象：過疎地域等を有する17市町)

市町の地域伴走支援体制の立ち上げについて3年間平均約1,400万円(県1/2補助)を支援

【取組状況】 10市町 [R5~①洲本市、②香美町、R6~③多可町、④新温泉町、⑤丹波市、R7~⑥佐用町、⑦南あわじ市、R8~3市町]

#### ③ マルチワーク組合支援事業〔検討・設立等補助〕 (対象：過疎地域等を有する17市町ほか)

組合の構想検討100万円(県1/2補助)、組合設立200万円(県1/4補助)、組合独自事業100万円(県1/4補助)を支援

【取組状況】 7市町 [R4設立：①香美町、②淡路市、R6設立：③丹波篠山市、R7構想検討(R8設立予定)：④宍粟市、⑤丹波市  
R8構想検討：2市町予定]

#### ④ 地域×大学×企業の「ひょうご絆プロジェクト」〔活動費補助〕 (対象：多自然地域37市町)

地域、大学、企業の連携による地域課題解決に資する活動を支援(2者連携25万円、3者連携37.5万円 最大3年間)

【取組状況】 19市町 [R5~①加古川市、②稲美町、③佐用町、④豊岡市、⑤香美町、⑥丹波市、⑦洲本市、⑧南あわじ市、⑨多可町、⑩宍粟市、⑪上郡町、⑫淡路市、R6~⑬西脇市、⑭加西市、R7~⑮高砂市、⑯神河町、⑰丹波篠山市、⑱養父市、⑲新温泉町]

市町への補助事業

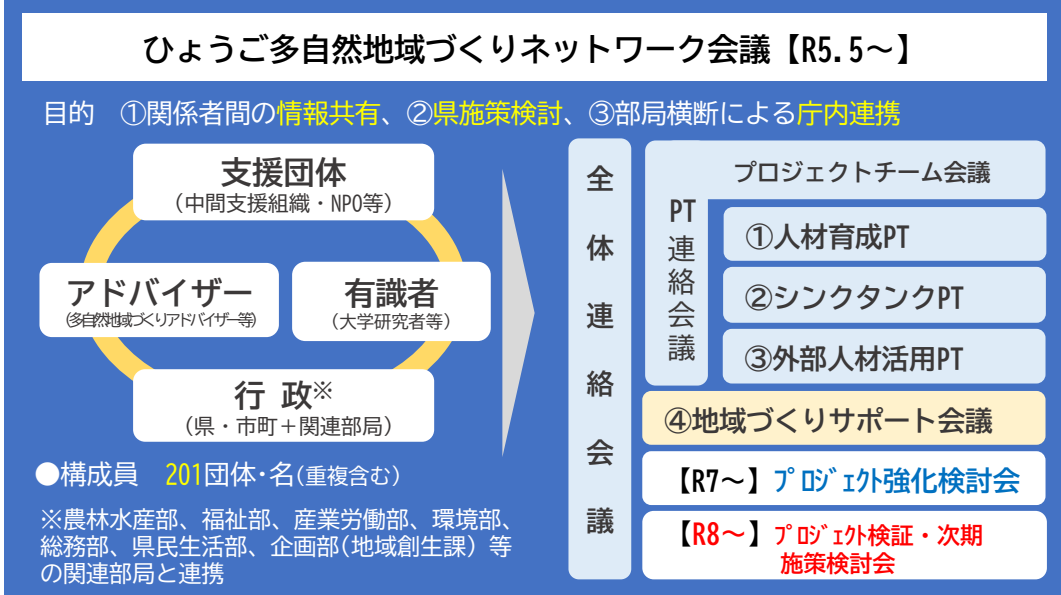
地域等への補助事業

延べ60市町で取組(予定)

## 1 持続可能な多自然地域づくりプロジェクトの推進

### (3) 県による広域的・専門的支援

- 効果的な県支援策の検討、市町支援の実施  
(ひょうご多自然地域づくりネットワーク会議の運営)
- ①市町職員やアドバイザー向け研修の企画・実施
- ②地域づくり支援者向けツールの開発
- ③関係人口の創出・拡大に向けた企画・実践
- 市町からのきめ細やかな相談対応として、  
アドバイザーを交えた地域づくりサポート会議の開催
- 多自然地域づくりアドバイザー等の専門人材の派遣



#### ①人材育成

- [R5～実績]
- 行政職員階層別研修3～4回/年
  - アドバイザー階層別研修5回/年
  - アドバイザー制度の見直し案策定



- [R8予定]
- 地域支援者向け基礎研修3回
  - 実践研修6回
  - 支援人材育成制度の検討

#### ②シンクタンク

市町職員等の支援者向け  
地域づくり支援ツールの開発

R5	<b>集落のワガゴト化ツール</b> ①集落基礎データ集 ②集落マップ (現状と10年後の見える化)
R6	<b>支援者が見立てるツール</b> ①支援者が見立てるツール (支援者の目線合わせ) ②集落の見立てカルテ
R7	<b>めざす姿実現に向けた 集落支援の知恵袋</b> (支援手法のデータベース)

- [R8予定] 上記3つのツールの普及  
啓発と実証・改善

#### ③外部人材活用

- [R5～実績]
- ひょうご関係人口案内所運営・検証
  - お試しパッケージ支援の実証
  - マッチングイベント延べ3回
  - 関係人口フォーラム交流会1回/年
  - ブロック別勉強会延べ4回

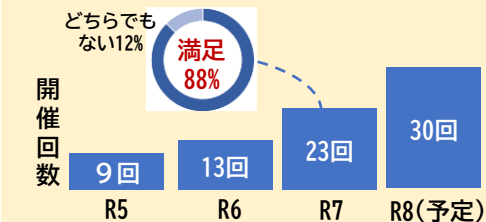


- [R8予定] 普及啓発、活動支援の継続、  
大学企業連携促進

#### ④地域づくりサポート会議

市町×県×アドバイザー等の3者による  
相談対応や検討の場

- [R5～実績]
- 単独市町開催→17市町で実施
  - テーマ別開催→36市町が参加
  - ★複数市町で開催テーマは、  
地域おこし協力隊、財政支援、  
ネットワークなど
  - ★市町、有識者の満足度が高い仕組み



- [R8予定] 30回/年を目標に市町の  
要望に応じて適宜開催

## 1 持続可能な多自然地域づくりプロジェクトの推進

### (4) プロジェクト強化事業 (R7~R8拡充)

- ・プロジェクト推進にあたって課題となっている地域支援の人材不足対策を調査・検討・実施

事業名	内 容
【継続】 多様な地域支援機能モデル構築事業	・市町の実情や地域特性に即した多様な地域支援機能向上の手法等を提示するハンドブック（仮）を作成 ⇒R7に実施した調査を踏まえ、実証・検証を行ったうえでハンドブックを作成し、普及啓発を実施
【継続】 地域づくり外部人材活用促進事業	・地域づくり外部人材を確保し活用を図るため、プロセス事例集・ガイドブック（仮）を作成 ⇒R7に調査・検討した対策案としてガイドブック策定、支援制度の調査・分析、普及啓発手法の検討、外部人材マッチングプラットフォーム機能やあり方の検討
【拡充】 特定地域づくり事業協同組合設立マニュアル策定事業	・特定地域づくり事業協同組合の設立を促進するため、組合設立や運営に関する県独自マニュアルを策定 ⇒記載内容：県内外の好事例・失敗事例、組合員募集の工夫 等

### (5) プロジェクト検証・次期施策検討会 (R8新規)

- ・プロジェクト全体の今後の支援のあり方や取組について検討するための調査及び有識者等から構成するプロジェクト検証・次期施策検討会を開催

項目	内 容
【新規】 検討会の開催	・多様な地域課題を包括的に解決するための施策を検討
【新規】 次期施策検討に向けた調査	・集落支援員に係る調査 ⇒県内市町で活動する集落支援員の実情や県内外の優良事例について調査・ヒアリング等により課題を整理し、さらなる地域支援に向けた対策手法を検討

## 2 移住定住施策の推進

### (1) 移住相談の実施

- ・ 県への移住を促進する相談窓口として、東京・大阪・神戸にひょうご移住・しごとプラザを設置
- ・ 県内市町と連携した移住促進セミナーの実施や、他団体主催イベントに出展
- ・ 県単独での総合的移住イベントの開催や、移住マッチングサイト「SMOUT」等を活用し、情報発信を強化



移住相談の様子

#### 【ひょうご移住・しごとプラザ概要】

区分	ひょうご移住・しごとプラザ	ひょうご移住プラザ (大阪)	ひょうご移住プラザ (神戸)
開設	平成28年1月16日 (旧東京センター) 令和2年4月1日(移住プラザ)	令和3年4月1日	平成29年2月22日 ※R4.7県庁(計画課内)に移転
開所日時	火～日10:00～18:00	金・土 10:00～18:00 ※第2・3土 市町・県民局相談	月～金9:00～17:00
体制	ふるさと回帰支援センターへ委託 (就労相談窓口も併設)	ふるさと回帰支援センターへ委託	兵庫県直営
R7相談等 件数	832件	209件	357件
業務概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移住相談：県内の移住相談窓口、市町および地域NPO等への取り次ぎ</li> <li>・ 出張相談の企画・実施：市町との合同相談会や移住イベントの実施等</li> <li>・ 広報業務：市町等による移住促進パンフレットの配布、移住イベントのPR等</li> </ul>		

## 2 移住定住施策の推進

### (2) 移住定住情報の発信

- ・移住ポータルサイト「兵庫で暮らせば…」等の活用により、移住関心層への情報発信を強化



WebサイトTOP画面



記事例(移住イベントのレビュー)



記事例(県内スポット情報)

- ・地方回帰志向の高まりを確実に捉えるため、市町や関係機関と連携した首都圏等での移住促進イベント「兵庫五国移住・交流フェア」を開催

#### 【R7兵庫県移住・交流フェア開催実績】

日程・会場	来場者数	開催内容	連携市町数
12月6日(土) 難波御堂筋ホール	308名	県内市町等による移住相談 先輩移住者によるトークステージ	34市町
11月2日(日) 東京交通会館	363名	県内市町等による移住相談 先輩移住者によるトークステージ 兵庫県工芸品のワークショップ 特産品マルシェ	22市町



大阪開催の様子



## 3 多様な地域資源の活用

### (1) 日本遺産等の活用

#### ① 日本遺産の活用促進

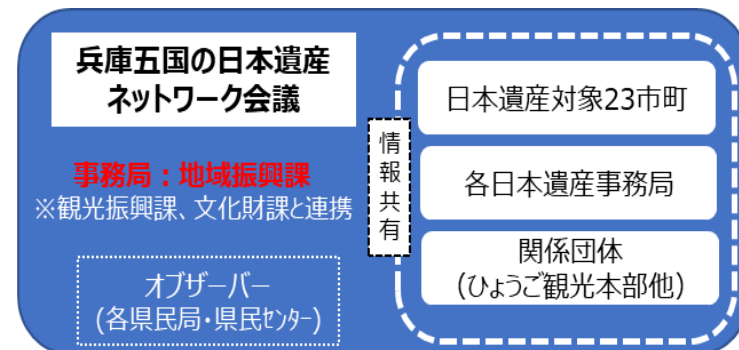
- ・ 全国最多 9 件の日本遺産が認定されている本県の強みを活かし、県、関係23市町、関係団体で構成する「日本遺産ネットワーク会議」を運営
- ・ 構成団体間の相互交流や課題の共有、広域的な取組を推進するとともに、フォーラムの開催、大規模イベントなどへの出展等を行い、認知度の向上と誘客を促進

#### ② 山陰海岸ジオパークの活用促進

- ・ 兵庫県、京都府、鳥取県など37団体で構成する推進協議会において、保護・保全活動や学術調査研究、誘客促進等に取り組み、ジオパークエリア全体の活性化を推進

#### ③ 「鳴門海峡の渦潮」世界遺産登録に向けた取組推進

- ・ 「鳴門海峡の渦潮」の世界遺産登録に向け、兵庫県や徳島県など41団体で構成する協議会において、学術調査や普及啓発、国・関係機関への働きかけを実施



日本遺産シンポジウム (R7.10.11)





「鳴門海峡の渦潮」国際シンポジウム (R7.9.1)

## 3 多様な地域資源の活用

### (2) 兵庫津ミュージアムを拠点とした地域資源の魅力発信

- ・兵庫津ミュージアムにおいて、展覧会や各種イベント開催等を通じ、兵庫県の成り立ちや兵庫五国の魅力を発信し、県民のふるさと意識を醸成
- ・ひょうごフィールドパビリオンをはじめとする県内各地へ、国内外の人々を誘う取組を展開

#### ① 施設概要

区分		兵庫県立兵庫津ミュージアム	
開館日	復元施設：初代県庁館 令和3年11月3日（水・祝）	展示施設：ひょうごはじまり館 令和4年11月23日（水・祝）	
規模	延床面積：約498㎡（平屋建）	延床面積：約4,029㎡（地上4階建）	
施設内容			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現存する絵図等に基づき時代考証を行い、歴史空間を体感する施設として復元</li> <li>・復元を基本に、その範囲内で一部活用できるよう、利便性も確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史ミュージアム機能をもった県のPR施設として整備</li> <li>・千年の歴史を誇る港兵庫津の歴史、独自の過程を辿った県成立の歴史、変化・多様性に富む兵庫五国を展示</li> </ul>	
運営体制	総務・企画部門：指定管理者 R4～R6 アクティオ株式会社／学芸部門：県 R7～R11 穴吹エンタープライズ株式会社／学芸部門：県		

## 3 多様な地域資源の活用

### ② 取組状況

○利用者数(R7年度)  
※R7.4～ R8.2

初代県庁館	50,319人
ひょうごはじまり館	85,561人
アウトリーチ活動	38,537人
<b>計</b>	<b>174,417人</b>

【参考】

- ・月平均 : 約1万4百人 ※アウトリーチ活動除く
- ・年齢別割合 : 未就学児・小学生 35.9%、大人 53.8%、  
中・高・大学生・支援学校 10.3%
- ・アウトリーチ活動 : 大阪関西万博会場への出展  
ひょうごミュージアムフェア（歴史博物館主催）への出展 等

### ○集客対策

区分	主な取組
平日対策	小学生等の校外学習の受け入れ、小学生の県庁見学コース・中学生のわくわくオーケストラ教室（県立芸術文化センター）のセット見学先への組込
休日対策	集客力のある企画展の開催、ファミリー向けイベント（ワークショップ、むかしあそび、宝探しイベント等）の実施
共通	学芸員歴史講座、セミナー、共催イベント開催(兵庫の港で帆船と遊ぼう※ 等) 等

※地域団体との共催イベント。兵庫津の港としての歴史を解説した後、帆船への乗船を体験

### ○運営

#### ▶ ボランティアの受入れ

71名のボランティアを登録、初代県庁館ガイド・まちあるきガイドツアー等を担当

#### ▶ ミュージアムサポーター制度「兵庫津ミュージアム倶楽部」の運用 (登録者数：143名 ※R8年2月末現在)



開館から4年4ヵ月で来館者50万人達成(R8.2.28)



校外学習



「兵庫の港で帆船と遊ぼう！」  
(R7.7.5)



## 3 多様な地域資源の活用

### ○企画展の開催

- ・兵庫五国成立のルーツを踏まえ、五国各地の魅力を多彩な内容で発信
- ・講演会、ワークショップの開催、現地ツアー等を組み込んだ内容で実施

	テーマ	内容	期間	入館者数
R 7	地球時間の旅 ～山陰海岸ジオパークへ行こう！～	・山陰海岸ジオパークの魅力紹介 ・日本各地のジオパーク紹介	R7.4.19 ～R7.6.22	20,455人
	妖怪水族館 ～身のまわりにひそむ水辺の妖怪たち～	・兵庫県内の妖怪伝承・水辺の妖怪を紹介	R7.7.19 ～R7.9.15	30,795人
	ひょうご五国の日本遺産 ～そのストーリーと魅力～	・県内日本遺産の魅力を紹介	R7.10.11 ～R7.11.30	18,529人
	近代スポーツと兵庫 ～明治・大正・昭和初期を回顧する～	・兵庫県における近代スポーツ発展の過程を紹介	R7.12.20 ～R8.3.15	21,542人 (2月末)
R 8	ひょうごに4つの県があった頃 ～第三次兵庫県の成立前史～	・兵庫県域に4つの県があった頃を紹介	R8.4.25 ～R8.6.21	—
	秋山美歩 紙のどうぶつたち (仮称)	・紙造形作家の作品で生き物を紹介	R8.7～R8.9 (予定)	—
	兵庫津発掘-よみがえる江戸時代 の浜本陣と町家- (仮称)	・兵庫津発掘調査の出土品等を紹介	R8.10.10 ～R8.12.6	—
	沢田伸 ヘリテージスケッチ 時代 を超える文化としての建築 と風景 (仮称)	・ヘリテージスケッチで兵庫県の建物等を紹介	R8.12～R9.3 (予定)	—



「妖怪水族館」展 関連イベント  
(河童のガジロウ交流会R7.7.19、8.11)



「ひょうご五国の日本遺産」展  
関連イベント (日本遺産フェアR7.11.23)



「近代スポーツと兵庫」展